

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人社団明徳会		
事業所名	グループホームいつくしみの郷 1ユニット		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	令和元年8月1日	評価結果市町村受理日	令和元年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&JigyosyoCd=2278300311-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院なので何かあった時にすぐに受診できる。毎月季節に合った行事を取り入れている。外気に触れる事を大事にし、散歩や外食、ピクニック等外出の機会を設けている。毎月、活動の様子を載せたおたよりを利用者様やご家族様に発行している。同時に地域に向けての広報誌も発行。スペースの半分は認知症に関する豆知識を取り入れ、地域の方々への理解を得る為の努力をしている。施設からの眺めが良く(田んぼ)、毎年夏には目の前で打ち上げ花火が見られる。家族との交流を大切にし、面会時間や外出、外泊の制限は特別していない。(感染症シーズンは別)行事等にも参加出来るようにお知らせし、こまめに交流出来るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

良眠、快食につながるとして「お日様の光を浴びなさい」を合言葉に、毎日のように散歩に出ており、お弁当持参でピクニックや買い物等戸外活動を生活に取込むことを心掛けている事業所です。法人の敷地内にある公園には金柑、びわ、ざくろが実り、小屋の掃除時にはアヒルの放し飼いの様子を飲み、金魚やうさぎを愛でて長閑な時間を浸ることが出来ます。入居にあたっては「ホームに慣れる」「これまでの生活を維持する」「転ばない」を重点課題として、1ヶ月を目安に暫定プランを作成しており、利用者一人ひとりにあったものとして、「気持ち良い生活(理念)」を目指した介護計画書を作成しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気持ちの良い生活」を理念としている。プラン立案時やサービス提供で迷った時などは理念を念頭に置き検討をしている。	掲示した理念は以前此処に暮らしていた利用者が筆で書いたもので、外見は少し傷んでいるものの職員にとっては愛着があって、大切にしています。会議や介護計画書の作成にあたっては、理念に基づいた発言や記述が見られ、浸透が視えます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺の散歩にて近隣の方や通学の子供たちと挨拶を交わしている。近隣のスーパーや公園などへ行ったり、行事(納涼祭)などを通して、交流の場としている。	小動物のコーナーや緑を求めて園児が戯れる公園で子どもに出遭う事もあり、系列の専門学校の文化祭前に届く珈琲チケットを握りしめ実習の学生と再会できたり、中学校の職業体験で生徒と触れ合う機会もあります。また近くに住む家族が収穫野菜をおすそ分けくださる日もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会用のおたよりを回覧することで、認知症の理解や支援、協力を頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、地域の代表の意見を今後のサービス向上に活かしている	隔月開催の運営推進会議では、日常的に作成する「利用者の生活のようす」を2ヶ月分の要約版に手直して出席者の前で読み上げるとともに、写真付の「いつくしみの郷だより」を配布して、事業所の活動内容を理解してもらえるよう努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂き、疑問や相談はその際することが多い。事前の御案内も直接届けに伺っている。	地域包括支援センターとは日頃から良好な関係が築けています。重度化による退去にあたり利用者家族が「どうしても此処にいたい」ということになった際、「自宅に戻る場合は適切なケアサービスが叶うよう居宅介護支援事業所を～」と、予め打診したときも快く応じてくださっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。施設内だけの生活にせず、定期的に外食やピクニックへ行っている。希望があった場合は随時散歩や買い物など外へ出来る機会を作っている。	法改正にあたり指針を備え、同時に設置した「身体的拘束適正化検討委員会」を運営推進会議終了後に実施しており、2ヶ月1回の開催としています。エレベータ操作を困難にすることで簡単に階下に降りられない状況ではあるものの、「職員に声をかけて～」と標識を示しています。	法改正に係る事柄については書類を一つにまとめるとともに記録が万全となるように、あらためて見直されることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を読んだり、研修会に参加し学んでいる。虐待が見過ごされることがないようにお互いに注意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加する等して学んでいる。個々の必要性を皆で話し合い、必要な利用者には活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の話を十分に聞いて、理解、納得の上で行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面談や面会などで家族等の意見が十分にかがえるような関係作りに努力している。	「いつくしみの郷だより」をユニットのトピックスとして各ユニット毎作成のうえ家族に届けています。面会は週2回と頻繁な家族もいて、事業所でも年1回はサービス担当者会議を家族を交えておこなうようにして、密な情報共有に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を言いやすい場や時間を確保してもらっている。	毎朝の申し送りと、ケアプラン会議を月1回実施しています。ピクニックや外食の日は手も要るため全員出勤の日を設け、そこをユニット毎のミーティングにも当てて皆で話し合うことを旨としています。内気な職員もふれば発言するので、進行役が配慮しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一年に一度各自で目標を立て、向上していけるようにしている。職員が無理なく働くことが出来るように希望等も受け入れ、勤務を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に応じた研修へ随時参加している。働きながら、必要な知識や技術を学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等へ参加し、同業者と交流する場としている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の家族、本人からの情報収集や日々の生活の中から聞き出せるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に面談の場を設け、家族の要望、不安に思っていることはないか確認している。又、面会の際にも困りごとはないか声を掛けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族とよく話をして、情報を聞き取り、その時必要としている支援を提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上からの目線ではなく、対等な立場で会話ができるように心掛けている。お互いに助け合い家族のような関係になれるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で近況報告を行い、家族とコミュニケーションをとり、情報共有し、家族の意向も伺い、共に支えていく関係を築いている。外出・外泊支援もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親せき、知人の面会がいつでもできるようにしている。家族と外出、外泊された時は、なじみの場所(自宅など)へ出掛け、なじみの人(近所の人など)との交流をしている。	自宅にお泊り外出をして隣近所の皆さんと旧交を深めて遊ぶ人、学生時代を思い出して習字の手習いに励む人、入居前から塗り絵が好きだった人には「すぐ無くなるため」多めにシートを準備しており、継続や維持が叶うように随所で工夫しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく仲の良い利用者同士で話ができるように食堂の席決めに配慮している。また、必要に応じ、職員が間に入り、橋渡しをする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も法人内の施設や入院先へ面会に行っている。また退去後のご家族様からの相談にも応じ、関係がスムーズに行く様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中(会話など)やこれまでの生活歴からそれぞれの思いを大事にし、困難なケースは一つ一つの行為を同意が得られるかで判断。	入居でのアセスメントで漏れてしまったこともありますが、利用者、家族との会話を重ねるなか、「日記をつけていた」「珈琲が好きで、豆の種類を決めていた」と、思いもかけない事が判っています。発見はすぐさま実践に移し、必要であれば家族にも協力を仰いでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までどういった生活をしていたのか家族から聞き、なるべくそれに近い生活をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の記録や毎日同時刻にバイタルチェックを行い、現状や変化に気付けるよう把握に努めている。本人や職員同士でコミュニケーションをとり、確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録、申し送りノート、ミーティング等で情報共有し、現状に即した介護計画を立てている。またこまめにご家族と面談をし意向に沿う様にしている。	入居にあたっては「ホームに慣れる」「これまでの生活を維持する」「転ばない」の3点を重点課題として、1ヶ月を目安に暫定プランを作成しており、利用者一人ひとりにあったものとして、理念に基づいた「気持ち良い生活」を目指した介護計画書を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの様子は、個別に記録し、情報共有して、記録をもとにプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に状況を把握し、個々に合った支援ができるよう検討し、取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある公園へピクニックに行っている。中学生、専門学生などの実習を受け、楽しくお話をされている事がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力病院の内科の主治医に受診。受診内容を記録し、家族へ郵送している。外来スタッフとも顔なじみで、長く待てない方への配慮を頂いている。	協力医でもある母体病院へ全員が移行しており、5～6週に1回定期受診があり、通院介助は必ず看護師でもある管理者と本人のユニット職員が付き、状況報告できるようにしています。協力医で取り扱いのない科へ受診は家族がおこない、双方「受診連絡表」に記録を残しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、不調があれば、看護師に報告、相談をし、指示を受けている。その後、必要であれば、受診をする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に看護師である管理者が病院関係者と情報交換をしている。職員にも伝えてくれる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、看護師、家族、職員と今後の方針を十分に話し合い、支援している。(受診内容を伝えたり必要に応じて、直接、ドクターから説明を受ける)その後は、法人施設に限らず地域のネットワークを活用し、最適な所を選定していく。	一般浴槽を利用するのが難しくなったり、口径摂取ができない、継続的医療が求められるなど、此処での生活が本人にとって難儀となる初期の段階で家族と話し合い、移設に向けた支援をおこなっていて、「看取りをおこなわない」ことは契約時に家族と合意形成できています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の仕方は、マニュアルがあるが、いざという時に不安があるので定期的に復習していきたい。日頃は何かあれば、看護師に連絡し、指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。連絡網の訓練も同時に行っている。常備食は、隣の厨房の倉庫に保管してもらっている。	年2回の防災訓練の実施はありますが、夜間想定には取組めていません。通常の「通報」「避難誘導」「消火器」のほか、連絡網のシミュレーションもおこなっています。備蓄も3日分程用意しています。	「通報」「避難誘導」「消火器」「連絡網」などのメニューにおいて、職員の体験が「ある」「なし」を記録するなどして、習熟度を確認していくことを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活パターンを把握し、プライドやプライバシーに配慮した声掛けや態度に気を付けて接している。	「なんでも(利用者自身が)自分でできるように」「危険がないなら本人がしたいように」と、日頃から管理者が意識を統一させていて、前回の外部評価の家族アンケートや見学から一部の職員に見られた言動は、省みるとともに担当フロアを変えるなどの是正に取り組んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方通行な会話をしないように言葉だけでなく表情も良く見るように心掛けている。認知症が進んだ方には選択肢を減らし、意思表示して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを大切にしている。入浴や散歩、お手伝いなどもその方に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着替えの服を選んだり、朝はくして髪をとかし、身だしなみを整えている。朝、できれば一度は鏡を見て、必要なケアをしてもらえるようにうながしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物が食べられるように家族に好き嫌いなどを聞き、味付けなどに注意している。又、週に一回欠食日を設け、メニューを考えたり材料を選んだり一緒に作ったりしている。	3~4品目の惣菜やデザートが付く献立が併設事業所の厨房から、朝昼晩の3食とともにおやつも届いています。週に1度は職員と利用者でメニューを決めて、買い物・調理・後片付けと、それぞれが自分ができることに参加してワイワイ、ガヤガヤ調理レクで賑わいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、毎食チェックしている。おかずだけを残したり、上手く噛めない人には、刻んだりおじやにして提供している。又、食事以外にも午前午後、お茶の時間をとる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には歯磨きやうがい、入れ歯洗浄を行なってもらっている。毎食後はお茶を飲んでもらい、口腔内を清潔に保つとともに、残差物が無いようにする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の記録からできるだけトイレ誘導をし、トイレでの排泄を大切にしている。	平均介護度2.1ということもあって、職員が細目に声をかけてタイミングを掴むとともに、自らトイレに行く人も少なくありません。便秘対策は薬に頼ると失敗も増える可能性があることから、できるだけ食事や運動で、としています。本人の希望で乳酸菌飲料を愛飲する人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然な物を取り入れ薬に頼らないようにしている。又、散歩や体操などの運動もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間など本人の習慣とその日の体調に合わせている。又、リラックス出来るよう入浴剤を入れている。	薔薇ならピンク、柚子なら黄色と、色のある湯に親しんでいて、時に職員がうっかり忘れて「今日は色がなかったよ」と申告がある程楽しみにしています。週2日が清潔の目安ですが、「毎日」の希望に応えることもでき、現在入浴日でない日をシャワー浴で満喫する人がいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごしてもらい、夜は寝たいという気持ちになってから休んでもらうようにしている。無理やり布団に入らずに、空腹等の原因をさぐったり、少し作業的な事をお手伝い頂き、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報はファイルに綴じ受診内容も職員が分かるように記載して確認している。特に、眠剤や便秘薬は不必要な投与とならないように、こまめな調節を看護師と相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かせるように楽しみや気分転換などを調べ、ケアプランに入れている。床屋さんを適宜お願いし、リラクゼーションの機会としている。また気に入った歌手のDVDをみんなで楽しんだりしている。個別で買い物等もやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日は散歩に出掛けたり個々で買い物に行ったりしている。又、毎月一回は、全員が外出できるように企画している。	良眠、快食につながるとして「お日様の光を浴びなさい」を合言葉に、毎日のように散歩に出ています。週1回実施する手作り献立の材料の買い出しや、公園にお弁当持参でピクニックへと戸外活動を生活に取り込むことを心掛けています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお小遣いを預かり職員が管理している。お金がないと不安だと訴える方には少額持っただけで済ませている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望があればかけてもらっている。携帯電話を持参している方もいる。年賀状、暑中お見舞いが届く方もいるので返事が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて利用者様と掲示物を作り貼ったり、写真やおたよりを飾っている。又、玄関前には季節の花を飾り、外出の度に喜ばれている。	畳敷きの広いスペースがありますが現在は雨天の日の洗濯干しの場に成っていて、スペースの有効活用ができていないことは課題ですが、本体の設備課から毎日清掃担当員が来ていて、大変清潔な共用空間です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり居室に入ったり、食堂で気の合う入居者同士でソファに座り、おしゃべりしたり自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅の部屋に近い配置をお願いし、使い慣れた物を居室に置くようにしている。又、家族の写真や好きな歌手のポスターを飾っている方もいる。逆に物が多いと混乱する方には、簡素にし、穏やかに居られるように工夫する。	洗面台の脇にある備え付けの棚は取り出しやすいため、生活用品を用途に応じて置くことができ、どの利用者も便利そうに使用していることが視えます。また昨年から曜日を決めて洗面台の掃除をするようになって、掃除もれを防いでいます。	居室扉の表札には写真やカードを挿入できる仕組みがありますが、現在十分活用できていません。今後の取組みを期待します。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所は、聞かなくても自分から分かる様貼り紙などをして工夫。トイレは出来るだけ同じ場所へ誘導。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人社団明徳会		
事業所名	グループホームいつくしみの郷 2ユニット		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	令和元年8月1日	評価結果市町村受理日	令和元年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2019_022_kami=true&JigyosyoCd=2278300311-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院なので何かあった時にすぐに受診できる。毎月季節に合った行事を取り入れている。外気に触れる事を大事にし、散歩や外食、ピクニック等外出の機会を設けている。毎月、活動の様子を載せたおたよりを利用者様やご家族様に発行している。同時に地域に向けての広報誌も発行。スペースの半分は認知症に関する豆知識を取り入れ、地域の方々への理解を得る為の努力をしている。施設からの眺めが良く(田んぼ)、毎年夏には目の前で打ち上げ花火が見られる。家族との交流を大切にし、面会時間や外出、外泊の制限は特別していない。(感染症シーズンは別)行事等にも参加出来るようにお知らせし、こまめに交流出来るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

良眠、快食につながるとして「お日様の光を浴びなさい」を合言葉に、毎日のように散歩に出ており、お弁当持参でピクニックや買い物等戸外活動を生活に取込むことを心掛けている事業所です。法人の敷地内にある公園には金柑、びわ、ざくろが実り、小屋の掃除時間にはアヒルの放し飼いの様子を飲み、金魚やうさぎを愛でて長閑な時間を浸ることが出来ます。入居にあたっては「ホームに慣れる」「これまでの生活を維持する」「転ばない」を重点課題として、1ヶ月を目安に暫定プランを作成しており、利用者一人ひとりにあったものとして、「気持ち良い生活(理念)」を目指した介護計画書を作成しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気持ちの良い生活」を理念としている。プラン立案時やサービス提供で迷った時などは理念を念頭に置き検討をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺の散歩にて近隣の方や通学の子供たちと挨拶を交わしている。近隣のスーパーや公園などへ行ったり、行事(納涼祭)などを通して、交流の場としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会用のおたよりを回覧することで、認知症の理解や支援、協力を頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、地域の代表の意見を今後のサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂き、疑問や相談はその際することが多い。事前の御案内も直接届けに伺っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。施設内だけの生活にせず、定期的に外食やピクニックへ行っている。希望があった場合は随時散歩や買い物など外へ出来る機会を作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を読んだり、研修会に参加し学んでいる。虐待が見過ごされることがないようにお互いに注意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修会に参加する等して学んでいる。個々の必要性を皆で話し合い、必要な利用者には活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の話を十分に聞いて、理解、納得の上で行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面談や面会などで家族等の意見が十分にかがえるような関係作りに努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を言いやすい場や時間を確保してもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一年に一度各自で目標を立て、向上していけるようにしている。職員が無理なく働くことができるように希望等も受け入れ、勤務を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に応じた研修へ随時参加している。働きながら、必要な知識や技術を学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等へ参加し、同業者と交流する場としている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の家族、本人からの情報収集や日々の生活の中から聞き出せるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に面談の場を設け、家族の要望、不安に思っていることはないか確認している。又、面会の際にも困りごとはないか声を掛けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族とよく話をして、情報を聞き取り、その時必要としている支援を提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上からの目線ではなく、対等な立場で会話ができるように心掛けている。お互いに助け合い家族のような関係になれるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で近況報告を行い、家族とコミュニケーションをとり、情報共有し、家族の意向も伺い、共に支えていく関係を築いている。外出・外泊支援もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親せき、知人の面会がいつでもできるようにしている。家族と外出、外泊された時は、なじみの場所(自宅など)へ出掛け、なじみの人(近所の人など)との交流をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく仲の良い利用者同士で話ができるように食堂の席決めに配慮している。また、必要に応じ、職員が間に入り、橋渡しをする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も法人内の施設や入院先へ面会に行っている。また退去後のご家族様からの相談にも応じ、関係がスムーズに行く様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中(会話など)やこれまでの生活歴からそれぞれの思いを大事にし、困難なケースは一つ一つの行為を同意が得られるかで判断。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までどういった生活をしてきたのか家族から聞き、なるべくそれに近い生活をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の記録や毎日同時刻にバイタルチェックを行い、現状や変化に気付けるよう把握に努めている。本人や職員同士でコミュニケーションをとり、確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録、申し送りノート、ミーティング等で情報共有し、現状に即した介護計画を立てている。またこまめにご家族と面談をし意向に沿う様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの様子は、個別に記録し、情報共有して、記録をもとにプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に状況を把握し、個々に合った支援ができるよう検討し、取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある公園へピクニックに行っている。中学生、専門学生などの実習を受け、楽しくお話をされている事がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力病院の内科の主治医に受診。受診内容を記録し、家族へ郵送している。外来スタッフとも顔なじみで、長く待てない方への配慮を頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、不調があれば、看護師に報告、相談をし、指示を受けている。その後、必要であれば、受診をする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に看護師である管理者が病院関係者と情報交換をしている。職員にも伝えてくれる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、看護師、家族、職員と今後の方針を十分に話し合い、支援している。(受診内容を伝えたり必要に応じて、直接、ドクターから説明を受ける)その後は、法人施設に限らず地域のネットワークを活用し、最適な所を選定していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の仕方は、マニュアルがあるが、いざという時に不安があるので定期的に復習していきたい。日頃は何かあれば、看護師に連絡し、指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。連絡網の訓練も同時に行っている。常備食は、隣の厨房の倉庫に保管してもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活パターンを把握し、プライドやプライバシーに配慮した声掛けや態度に気を付けて接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方通行な会話をしないように言葉だけでなく表情も良く見るように心掛けている。認知症が進んだ方には選択肢を減らし、意思表示して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを大切にしている。入浴や散歩、お手伝いなどもその方に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着替えの服を選んだり、朝はくして髪をとかし、身だしなみを整えている。朝、できれば一度は鏡を見て、必要なケアをしてもらえるようにうながしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物が食べられるように家族に好き嫌いなどを聞き、味付けなどに注意している。又、週に一回欠食日を設け、メニューを考えたり材料を選んだり一緒に作ったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、毎食チェックしている。おかずだけを残したり、上手く噛めない人には、刻んだりおじやにして提供している。又、食事以外にも午前午後、お茶の時間をとる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には歯磨きやうがい、入れ歯洗浄を行なってもらっている。毎食後はお茶を飲んでもらい、口腔内を清潔に保つとともに、残差物が無いようにする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の記録からできるだけトイレ誘導をし、トイレでの排泄を大切にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然な物を取り入れ薬に頼らないようにしている。又、散歩や体操などの運動もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間など本人の習慣とその日の体調に合わせるようにしている。又、リラックス出来るよう入浴剤を入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごしてもらい、夜は寝たいという気持ちになってから休んでもらうようにしている。無理やり布団に入れずに、空腹等の原因をさぐったり、少し作業的な事をお手伝い頂き、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報はファイルに綴じ受診内容も職員が分かるように記載して確認している。特に、眠剤や便秘薬は不必要な投与とならないように、こまめな調節を看護師と相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かせるように楽しみや気分転換などを調べ、ケアプランに入れている。床屋さんを適宜お願いし、リラクゼーションの機会としている。また気に入った歌手のDVDをみんなで楽しんだりしている。個別で買い物等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日は散歩に出掛けたり個々で買い物に行ったりしている。又、毎月一回は、全員が外出できるように企画している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお小遣いを預かり職員が管理している。お金がないと不安だと訴える方には少額持っただけでいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望があればかけてもらっている。携帯電話を持参している方もいる。年賀状、暑中お見舞いが届く方もいるので返事が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて利用者様と掲示物を作り貼ったり、写真やおたよりを飾っている。又、玄関前には季節の花を飾り、外出の度に喜ばれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり居室に入ったり、食堂で気の合う入居者同士でソファに座り、おしゃべりしたり自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅の部屋に近い配置をお願いし、使い慣れた物を居室に置くようにしている。又、家族の写真や好きな歌手のポスターを飾っている方もいる。逆に物が多いと混乱する方には、簡素にし、穏やかに居られるように工夫する。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所は、聞かなくても自分から分かる様貼り紙などをして工夫。トイレは出来るだけ同じ場所へ誘導。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300311		
法人名	医療法人社団明徳会		
事業所名	グループホーム いつくしみの郷 3ユニット		
所在地	静岡県浜松市浜北区平口2406-1		
自己評価作成日	令和元年8月1日	評価結果市町村受理日	令和元年11月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action_kouhou_detail_2019_022_kani=true&JigyosyoCd=2278300311-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和元年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体が病院なので何かあった時にすぐに受診できる。毎月季節に合った行事を取り入れている。外気に触れる事を大事にし、散歩や外食、ピクニック等外出の機会を設けている。毎月、活動の様子を載せたおたよりを利用者様やご家族様に発行している。同時に地域に向けての広報誌も発行。スペースの半分は認知症に関する豆知識を取り入れ、地域の方々への理解を得る為の努力をしている。施設からの眺めが良く(田んぼ)、毎年夏には目の前で打ち上げ花火が見られる。家族との交流を大切にし、面会時間や外出、外泊の制限は特別していない。(感染症シーズンは別)行事等にも参加出来るようにお知らせし、こまめに交流出来るようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

良眠、快食につながるとして「お日様の光を浴びなさい」を合言葉に、毎日のように散歩に出ており、お弁当持参でピクニックや買い物等戸外活動を生活に取込むことを心掛けている事業所です。法人の敷地内にある公園には金柑、びわ、ざくろが実り、小屋の掃除時間にはアヒルの放し飼いの様子を飲み、金魚やうさぎを愛でて長閑な時間を浸ることが出来ます。入居にあたっては「ホームに慣れる」「これまでの生活を維持する」「転ばない」を重点課題として、1ヶ月を目安に暫定プランを作成しており、利用者一人ひとりにあったものとして、「気持ち良い生活(理念)」を目指した介護計画書を作成しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「気持ちの良い生活」を理念としている。プラン立案時やサービス提供で迷った時などは理念を念頭に置き検討をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺の散歩にて近隣の方や通学の子供たちと挨拶を交わしている。近隣のスーパーや公園などへ行ったり、行事(納涼祭)などを通して、交流の場としている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会用のおたよりを回覧することで、認知症の理解や支援、協力を頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者家族、地域の代表の意見を今後のサービス向上に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には毎回参加して頂き、疑問や相談はその際することが多い。事前の御案内も直接届けに伺っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行っている。施設内だけの生活にせず、定期的に外食やピクニックへ行っている。希望があった場合は随時散歩や買い物など外へ出来る機会を作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料を読んだり、研修会に参加し学んでいる。虐待が見過ごされることがないようにお互いに注意している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	研修会に参加する等して学んでいる。個々の必要性を皆で話し合い、必要な利用者には活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の話を十分に聞いて、理解、納得の上で行われている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面談や面会などで家族等の意見が十分にかがえるような関係作りに努力している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を言いやすい場や時間を確保してもらっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一年に一度各自で目標を立て、向上していけるようにしている。職員が無理なく働くことが出来るように希望等も受け入れ、勤務を作成している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員に応じた研修へ随時参加している。働きながら、必要な知識や技術を学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等へ参加し、同業者と交流する場としている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の家族、本人からの情報収集や日々の生活の中から聞き出せるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に面談の場を設け、家族の要望、不安に思っていることはないか確認している。又、面会の際にも困りごとはないか声を掛けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族とよく話をして、情報を聞き取り、その時必要としている支援を提供できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	上からの目線ではなく、対等な立場で会話ができるように心掛けている。お互いに助け合い家族のような関係になれるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で近況報告を行い、家族とコミュニケーションをとり、情報共有し、家族の意向も伺い、共に支えていく関係を築いている。外出・外泊支援もしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親せき、知人の面会がいつでもできるようにしている。家族と外出、外泊された時は、なじみの場所(自宅など)へ出掛け、なじみの人(近所の人など)との交流をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なるべく仲の良い利用者同士で話ができるように食堂の席決めに配慮している。また、必要に応じ、職員が間に入り、橋渡しをする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も法人内の施設や入院先へ面会に行っている。また退去後のご家族様からの相談にも応じ、関係がスムーズに行く様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中(会話など)やこれまでの生活歴からそれぞれの思いを大事にし、困難なケースは一つ一つの行為を同意が得られるかで判断。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までどういった生活をしてきたのか家族から聞き、なるべくそれに近い生活をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の記録や毎日同時刻にバイタルチェックを行い、現状や変化に気付けるよう把握に努めている。本人や職員同士でコミュニケーションをとり、確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録、申し送りノート、ミーティング等で情報共有し、現状に即した介護計画を立てている。またこまめにご家族と面談をし意向に沿う様にしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの様子は、個別に記録し、情報共有して、記録をもとにプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に状況を把握し、個々に合った支援ができるよう検討し、取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにある公園へピクニックに行っている。中学生、専門学生などの実習を受け、楽しくお話をされている事がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力病院の内科の主治医に受診。受診内容を記録し、家族へ郵送している。外来スタッフとも顔なじみで、長く待てない方への配慮を頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化、不調があれば、看護師に報告、相談をし、指示を受けている。その後、必要であれば、受診をする。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に看護師である管理者が病院関係者と情報交換をしている。職員にも伝えてくれる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、看護師、家族、職員と今後の方針を十分に話し合い、支援している。(受診内容を伝えたり必要に応じて、直接、ドクターから説明を受ける)その後は、法人施設に限らず地域のネットワークを活用し、最適な所を選定していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の仕方は、マニュアルがあるが、いざという時に不安があるので定期的に復習していきたい。日頃は何かあれば、看護師に連絡し、指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っている。連絡網の訓練も同時に行っている。常備食は、隣の厨房の倉庫に保管してもらっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活パターンを把握し、プライドやプライバシーに配慮した声掛けや態度に気を付けて接している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一方通行な会話をしないように言葉だけでなく表情も良く見るように心掛けている。認知症が進んだ方には選択肢を減らし、意思表示して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の生活リズムを大切にしている。入浴や散歩、お手伝いなどもその方に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着替えの服を選んだり、朝はくして髪をとかし、身だしなみを整えている。朝、できれば一度は鏡を見て、必要なケアをしてもらえるようにうながしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの物が食べられるように家族に好き嫌いなどを聞き、味付けなどに注意している。又、週に一回欠食日を設け、メニューを考えたり材料を選んだり一緒に作ったりしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録し、毎食チェックしている。おかずだけを残したり、上手く噛めない人には、刻んだりおじやにして提供している。又、食事以外にも午前午後、お茶の時間をとる様になっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には歯磨きやうがい、入れ歯洗浄を行ってもらっている。毎食後はお茶を飲んでもらい、口腔内を清潔に保つとともに、残差物が無いようにする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の記録からできるだけトイレ誘導をし、トイレでの排泄を大切にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく自然な物を取り入れ薬に頼らないようにしている。又、散歩や体操などの運動もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間など本人の習慣とその日の体調に合わせている。又、リラックス出来るよう入浴剤を入れている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごしてもらい、夜は寝たいという気持ちになってから休んでもらうようにしている。無理やり布団に入れずに、空腹等の原因をさぐったり、少し作業的な事をお手伝い頂き、眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報はファイルに綴じ受診内容も職員が分かるように記載して確認している。特に、眠剤や便秘薬は不必要な投与とならないように、こまめな調節を看護師と相談する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かせるように楽しみや気分転換などを調べ、ケアプランに入れている。床屋さんを適宜お願いし、リラクゼーションの機会としている。また気に入った歌手のDVDをみんなで楽しんだりしている。個別で買い物等も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気がいい日は散歩に出掛けたり個々で買い物に行ったりしている。又、毎月一回は、全員が外出できるように企画している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にお小遣いを預かり職員が管理している。お金がないと不安だと訴える方には少額持っただけで済ませている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望があればかけてもらっている。携帯電話を持参している方もいる。年賀状、暑中お見舞いが届く方もいるので返事が出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて利用者様と掲示物を作り貼ったり、写真やおたよりを飾っている。又、玄関前には季節の花を飾り、外出の度に喜ばれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとり居室に入ったり、食堂で気の合う入居者同士でソファに座り、おしゃべりしたり自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅の部屋に近い配置をお願いし、使い慣れた物を居室に置くようにしている。又、家族の写真や好きな歌手のポスターを飾っている方もいる。逆に物が多いと混乱する方には、簡素にし、穏やかに居られるように工夫する。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所は、聞かなくても自分から分かる様貼り紙などをして工夫。トイレは出来るだけ同じ場所へ誘導。		